

ふっ こう き ねん てん
復興祈念展

一人びとのいとなみの継承けいしょう

〈後期展〉

展示解説資料



赤坂D遺跡出土 交差鋸齒文縁復弁六葉蓮華文軒丸瓦

福島県文化財センター-白河館
2025

目 次

中間貯蔵施設建設地内の遺跡

双葉町 銅谷迫遺跡	1
双葉町 後迫 B 遺跡	1
大熊町 梨木平遺跡	1

県道広野小高線の遺跡

浪江町 鹿屋敷遺跡	2
浪江町 赤坂 D 遺跡	3
富岡町 毛萱館跡	4

中間貯蔵施設建設地内の遺跡

銅谷迫遺跡 (2018・2019年発掘調査)

本遺跡は、双葉町大字郡山字銅谷迫の丘陵平坦面に位置する飛鳥・奈良・平安時代の集落跡です。主な遺構は竪穴住居跡 43 軒、掘立柱建物跡 13 棟、方形区画溝などです。

本遺跡は郡山五番遺跡（詳細別項）の近くにあり、同時期に営まれていることから関連がうかがわれます。

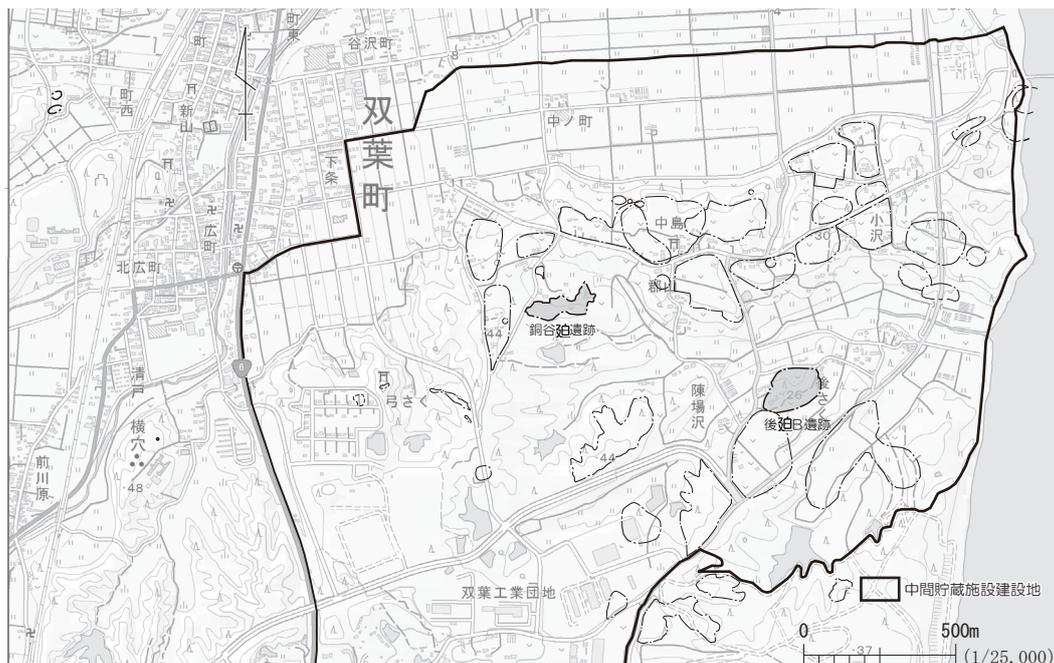
後迫B遺跡 (2019・2020年発掘調査)

本遺跡は、双葉町大字郡山字後迫の丘陵平坦面及び斜面に位置する弥生・古墳・飛鳥・奈良・平安時代の集落跡と江戸時代の墓地です。主な遺構は竪穴住居跡 54 軒、土坑 51 基、遺物包含層 2 か所、墓跡 4 基などです。

出土遺物で最も注目されるのは、弥生時代中期後葉の石剣・石戈です。金属利器を石で模倣したもので、東北地方での出土例はきわめて稀です。次に注目されるのは、江戸時代の墓から出土した銅製の錫杖頭です。錫杖頭とは僧侶や修験者が持ち歩く錫杖の頭部のことです。さらに、近現代の遺物に盃・銚子・湯飲み・牛乳瓶があります。銚子・湯飲みには旧町名の新山町が記されています。銚子は東日本大震災前まで営業していた富沢酒造店が頒布したものです。盃は 1940 年に開催が予定されていた東京オリンピックを記念して製造されたものですが、日中戦争の勃発により日本政府が開催権を返上したため、オリンピックは開催されませんでした。牛乳瓶は、かつて浪江町にあった双葉乳業株式会社が製造・販売していたものです。

梨木平遺跡 (2017年工事立会)

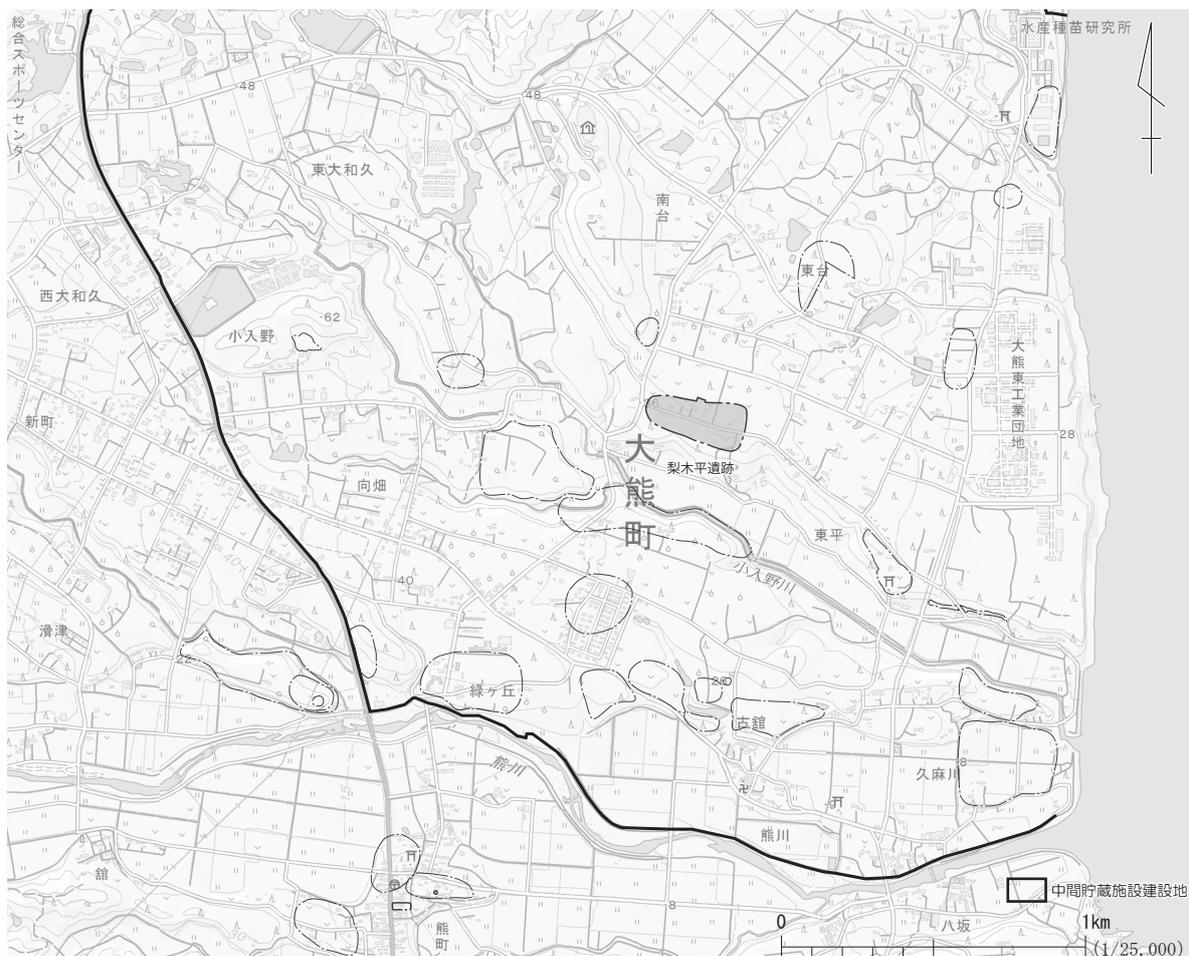
本遺跡は、大熊町大字小入野字東平の小入野川沿いの河岸段丘に位置する奈良時代の集落跡です。遺構は竪穴住居跡 2 軒、土坑 11 基がみつかりました。



【平成 31・令和元年度中陸貯蔵土壌貯蔵施設等工事予定地における埋蔵文化財調査業務 業務報告書】所収の図を基に作成

図 1 中間貯蔵施設建設地内の遺跡（双葉町）

土坑は、その堆積土下部に木炭が多く含まれることから、木炭焼成土坑と考えられます。住居跡からは^{はぐち}羽口・^{てっさい}鉄滓などが出土していることから、製鉄に関連する集落跡とみられます。



『平成31・令和元年度中間貯蔵土壌貯蔵施設等工事予定地における埋蔵文化財調査業務 業務報告書』所収の図を基に作成

図2 中間貯蔵施設建設地内の遺跡（大熊町）

県道広野小高線の遺跡

しかやしき 鹿屋敷遺跡（2018・2019年発掘調査）

本遺跡は、浪江町大字棚塩字狐塚他に所在し、^{うけど}請戸川左岸の^{か がんだんきゅう}河岸段丘上に立地する広大な遺跡です。これまでに、浪江町教育委員会により4回発掘調査が実施されてきました。県道建設に伴うこの2年間の調査では、^{きゅうせきじだい}旧石器時代から平安時代にかけての集落跡であることが分かりました。

遺構は、^{たてあなじゆうきよあと}竪穴住居跡63軒、^{ほったてばしらたてものあと}掘立柱建物跡6棟、^{せつきせいさくこうぼう}石器製作工房1基、^{しゅうこうじょういこう}周溝状遺構1基など多くの遺構が検出されています。時代ごとに見てみると、旧石器時代および縄文時代の遺構は検出されませんでした。弥生時代中期後半は竪穴住居跡1軒と石器製作工房1基、古墳時代前期は竪穴住居跡26軒、古墳時代中期は竪穴住居跡1軒、古墳時代後期は竪穴住居跡8軒、飛鳥時代は竪穴住居跡17軒、奈良時代は竪穴住居跡7軒、平安時代は竪穴住居跡3軒となり、^{きよじゆういき}居住域は時代や時期により異なり、特に、古墳時代前期には北半部に、古墳時代後期には南半部に集中しています。

竪穴住居跡の特徴としては、古墳時代中期までは炉跡を持ち、古墳時代後期以降はカマドを持つという特徴があります。また、古墳時代の竪穴住居跡の中には鉄製品を製作する際の鍛冶炉や鉄滓が見つかったものもあります。

遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器の他、勾玉、土製の仏像螺髪、馬具の鉄製鉸具、金銅製耳環など珍しいものも出土しています。

赤坂D遺跡 (2019・2020年発掘調査)

本遺跡は、浪江町大字棚塩字赤坂に所在し、丘陵上に立地します。

2年間の調査で、谷に面した西向き斜面より飛鳥時代から奈良時代にかけての製鉄炉跡廃滓場1か所、瓦窯跡5基、須恵器窯跡1基、木炭窯跡13基などが近接して見つかりました。

製鉄炉跡の本体部分は調査区外に想定されますが、廃滓場から送風用の羽口が1点も出土していないのに対して、送風用の穴が開けられた炉壁が出土していることから、古代東北地方における初期の長方形箱形炉と考えられます。廃滓場からは合計16トンの鉄滓が出土していますが、形状により、炉の中に生成された表面が赤っぽい炉内滓、炉の外に流れ出た表面が黒っぽい流出滓、粘土で作られ内面が高温でドロドロに融けた炉壁、炉の底に溜まった炉底滓、投入した砂鉄が融けなくて固まった砂鉄焼結塊などに分類されます。

瓦窯跡・須恵器窯跡・木炭窯跡は全て斜面をトンネル状に掘って作られ、内壁は作業中の高温により硬くなっています。瓦窯跡内および失敗品を捨てた灰原からは、軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・熨斗瓦・隅切瓦が出土していますが、その中には、交差鋸歯文縁複弁六葉蓮華文軒丸瓦や重弧文軒平瓦があります。須恵器窯跡では大小の甕の他、鉢・壺・甕・横瓶などが焼成されていたと考えられます。また、木炭窯跡では製鉄作業時の燃料の木炭を焼成していたと考えられます。

これらの製鉄炉跡や瓦はいずれも律令制成立期(7世紀末~8世紀初頭)のもので、遺跡内の須恵器窯跡で焼成された須恵器も同時期のものと考えられます。

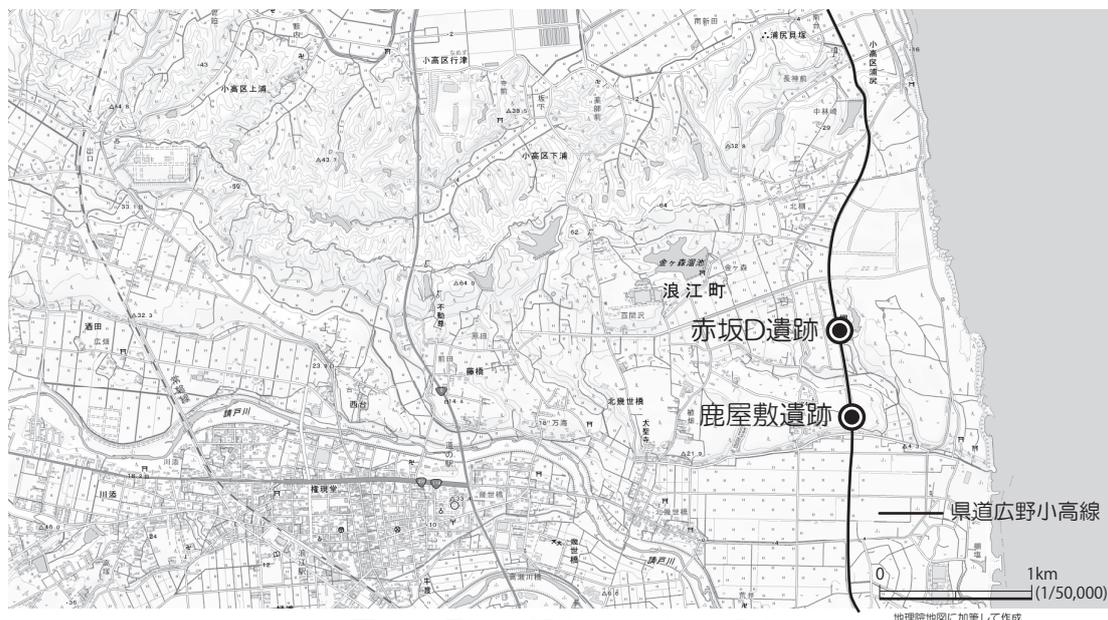


図3 県道広野小高線 (浪江町)

本遺跡が所在する浪江町付近は、古代における陸奥国標葉郡域に相当すると考えられています。本遺跡は、当時の標葉郡の中心的施設の標葉郡衙に比定される郡山五番遺跡（双葉町）からは北方に約5kmしか離れていないことから、標葉郡を支える複合的な生産拠点であったと考えられます。

なお、調査区東側の瓦窯跡を中心とした区域は重要遺構と判断され、工法変更により調査後に埋め戻しを行い、保存されています。

毛萱館跡（2019・2020年発掘調査）

本遺跡は、富岡町大字毛萱字前川原の紅葉川沿いの丘陵に立地します。

調査の結果、弥生時代中期後半の集落跡と室町時代の城館跡が見つかりました。

弥生時代中期後半の集落跡からは、竪穴住居跡12軒が検出され、弥生土器と石器が出土しました。室町時代の城館跡からは、平場8か所、土塁5条、堀跡3条、建物跡10棟、柱列跡7列、門跡1基、道跡2条、溝跡14条などが見つかり、丘陵を土塁と堀で分断し、その内側を城域としていることが分かりました。遺物は、古瀬戸の天目茶碗・平碗・茶壺・茶臼などの喫茶具や瓶子・かわらけなどの宴会に用いられた容器が出土しました。この中で、菊花・松葉・洲浜（浜辺の入り組んだ地形を意匠化したもの）を墨書したかわらけは、当時の宴会儀礼を考える上で貴重な資料といえます。

また、縄文時代晩期頃の刺突文が施された土偶も出土しました。



図4 県道広野小高線（富岡町）

復興祈念展
一人びとのいとなみの継承—
〈後期展〉
展示解説資料
令和7年4月1日発行
編集・発行 福島県文化財センター白河館